

聴神経腫瘍・小脳橋角部腫瘍の手術とマネジメント

著：河野 道宏 東京医科大学脳神経外科分野主任教授



評者 森田 明夫 日本医科大学 脳神経外科

より良い手術のために

本書は河野先生がライフワークと定めて経験を積み重ね、2,000 例を超える聴神経腫瘍・小脳橋角部の腫瘍に対する手術を経験して、その症例から得られた知識と技を余すところなく記載された名著と言える。

内容は聴神経腫瘍や後頭蓋腫瘍の診断から治療適応、治療の判断・根拠、他の治療の利点欠点、様々なアプローチと決定、術中のモニタリング、治療における道具の使い方、細かい手術上のテクニック、予期せぬ事象に関する対応、術後の対応、顔面神経麻痺に対する治療など多岐に及んでおり、聴神経腫瘍や小脳橋角部の腫瘍や病変に対する治療についての知識が余すことなく、また外科医として専売特許と言える秘技も含めて記載されている。また 21 世紀の書籍に相応しく、88 ものビデオを含む DVD やオンラインコンテンツなど Multimedia を駆使された構造になっており、読むだけでなく、実際の手術やコツをビデオから見て学べるようになっている。

一言で 2,000 例と言っても同じ領域の手術を 2,000 例実施するのは並大抵の努力で成し遂げられるものではない。アカデミックな検証や手技をただ磨けば良いだけではなく、実績をある程度あげ、そして自分の実績を同業者のみではなく、耳鼻科や関係する領域の先生の会にしっかりと出席して自己アピールするという社会的活動も重要になる。その中にはもちろん患者や家族との密な連携や家族会への貢献も欠くことの

できないものである。その河野先生の努力の結晶が本書と言える。河野先生が富士脳障害研究所附属病院に在籍の頃からその成長を見てきた自分としては、氏の本当に尊敬すべき点は、数よりも、そのあくなき努力・精進だと思っている。そして、多分 10 年後にはもっと素晴らしい技と知識を我々に見せ・示してくれるのではないかと信じている。

この本はこれから脳神経外科のエキスパートサーजनを目指す若手の先生方から、私のようなロートルにとっても明日から使える知識と技が満載された書籍となっている。特に聴神経腫瘍の手術は奥が深い。一から始めて learning curve がある程度達するためには長い年月を要する。できれば本書から 2,000 例分の経験を疑似体験してから経験を積み、先達がたどった道より速いスピードで、良い安全な手術ができる術者・脳神経外科医となることを目指してほしい。本書は各々が購入し、揃えるのも良いと思うが、ぜひ 1 脳神経外科部署で一冊備えて欲しいものである。

また本書は今後国際化（英文化）も目指していると聞く。河野先生はすでに世界的に名の知れた術者であるが、本書が世界の手術レベルを押し上げる一助になると信じている。

A4 判 頁 398 2021 年 10 月 定価：19,800 円（本体 18,000 円＋税） 中外医学社刊 [ISBN978-4-498-32874-7]
<http://chugaigaku.jp/item/detail.php?id=3659>

